

## 韓国語との出会いと言語学習 Encountering Korean language and language learning

駒田 葵 KOMADA Aoi<sup>1</sup>

### 要旨

幼少期をアメリカで過ごした筆者が、高校入学時に韓国語と出会い、新たな外国語学習を通して、複数の言語学習とその背景にある文化理解の重要性に気づいていく。

### キーワード:

高等学校、韓国語、言語と文化

### Abstract

The author, who spent her childhood in the United States, discovered Korean when she entered high school. Through learning a new foreign language, she realized the importance of learning more than one language and understanding the culture behind it.

### Keywords:

high school, Korean language, language and culture

### 1. はじめに

私は高校生として過ごした 3 年間で、韓国語と英語を外国語として学んだ。将来のことや周りの同級生とは違うことを学ぶことに対する不安は少なからずあったが、この 3 年間で振り返って、私は韓国語を学んで本当に良かったと感じている。「人とは違う学び」をすることが、今では私の大きな強みとなっている。

### 2. 幼少期の言語習得

私は幼少期をアメリカで過ごした。物心ついた時から既にアメリカにいたため、英語は「学んだ」というよりは赤ちゃんが日本語を話せるようになる感覚で「習得した」というほうが合っているかもしれない。そのため、英語が「外国語」であるという感覚が私には

---

<sup>1</sup> 所属: 関東国際高等学校外国語科韓国語コース 3 年 KANTO International Senior High School

無かった。日本語と英語を、時と場合によって話しやすいほう、または通じやすいほうを選んで話すのが普通だった。言うなれば、母語が2つあったようなものだった。英語が苦手な人からすると、「日本語を話すように英語を自然と話せるなんて羨ましい」と思われるかもしれないが、わたしは何か物足りなさを感じていた。日本に戻り中学生になって、英語の授業が本格的に始まってからは特にそう感じるが増えた。「どうしてこうなるの？」と友人に聞かれても「そういうものだから」「なんとなくそうなるのよ」としか答えることができなかった。時には、何故問題にするのかわからず、考えすぎて困ってしまった。しかし、これらのやりとりで、全く何も得ることがなかったわけでもない。英語の授業を通して、私は翻訳というものに対する興味が深まった。今まで日本語にしたことがなかった言葉を日本語に翻訳し、翻訳された日本語を通して英語が苦手な友人も同じ作品を読んだり楽しんだりできた経験は、私の中で大きな変化を生んだ。また、英語を1から学び始めた友人たちを見て、1から言語を学ぶとはどういうことなのかに興味をもった。翻訳を介さず、自分の言葉として使えるようになるまで学ぶということの大変さや、その過程で感じるであろう喜びが一体どんなものなのか、考えるようになったのだ。

### 3. 高校での韓国語学習

そんな矢先に見つけたのが、今の高校である。継続して英語を学びつつ、新たな言語を学ぶことができるという環境に私は強く心惹かれた。そしてそのときめきは、今でもずっと心の中に生き続けている。数ある言語の中から、私は韓国語を選択した。1から言語を学べるなら何でも良かったが、「せつかく学ぶのであれば今最も興味がある言語にしたい！」と思い、韓国語を選んだ。韓国語に興味を持ったのは韓国のアイドルを好きになったことがきっかけである。「なんだ、アイドルか」と思う人もいるかもしれない。実際、私自身も動機としては正直どうか、と今でも思う。しかし、意外にもこの動機が、私にとっては大きな効果があった。私はアイドルの言説から多くのものを学んだ。初めは学校で学んだことを使ってアイドルが話す言葉を理解できたことに達成感を感じるのみだった。しかし次第に授業と並行してアイドルの活動を追いかけてながら学ぶことが圧倒的に増えた。歌を聞いたり動画を見るのがリスニングの練習になり、また、動画の字幕を読むことが単語の習得につながり、徐々に読むスピードも上がっていった。勿論、アイドル自体は、教材として話しているわけではないため、話す速度が速く、また語彙も多岐にわたり、教科書のレベルを大きく超えている。しかし、それが功を奏した。私にとってはただ好きな人の動画を毎日見ているだけだったが、それは毎日現

地の人の発音や会話を聞くことと同じことだったのだ。方言や若者言葉、アイドル本人たちが作り出した言葉も混ざっているため、一概にアイドルを見て学べる！とは言えないが、今の私にとってアイドル達の動画は心の栄養でもあり学べることが多い「宝の山」なのである。

私が今ここで伝えたいのは、言語の学習においては、どんなに小さなきっかけであっても、それが自分にとって関心があることであれば、必ず大きな成果となって自分に返ってくるということだ。私もアイドルが好きだという、些細な動機で韓国語を学び始めた。しかし、学び始めてから確実に私の世界は広がった。言葉を学び、より多くの人と交流をすることができるようになった。多くの人と交流をすると、リアルな韓国の社会や文化を学ぶことができた。交流を深めていくと、一気に韓国が身近な国になった。例えるなら、世界に私の家がもう 1 つ増えたような感じがした。また、韓国の人との交流は一層私の価値観を磨いた。新たな世界や価値観を知ることは、私を豊かにしてくれた。言語を学ぶことで、私の人生は大きく変わっていった。

#### 4. 将来に向けて

言語と文化は表裏一体であると私はいつも思っている。言語を習得するには文化を知ることに関わり、文化を知ることが、また言語への理解を深めることに繋がるのではないかと思う。また、言語や文化を知ることが世界を知ることに関わる。目まぐるしく変化していく今の世界を、言語を学び続けることで少しでも知ることができたら、どれだけ楽しく有意義なことだろうか。今後、日本における言語(外国語)学習者の人口は、さらに増加していくと思う。グローバル化が進めば、必然と様々な言語を話す人と交流をすることになるからだ。「言語を知ることが文化を知ること」だとすれば、言語学習者が増える分、異文化を学ぶ人も増える。異文化を学ぶ人が増えれば、本当の意味での「地球規模での」繋がりができるのではないかと思う。

できる限り多くの外国語を、私は生涯学び続けたいと思う。多様性に富む言葉の世界を学び続けることは、私自身の進化に繋がると信じているからだ。